



加茂町・木次町・大東町・三刀屋町


卑弥呼の鏡が出た古墳 神原神社古墳

 加茂町神原
 <指定>国重文(出土品一括)
 1982年、赤川の改修工事に伴う調査で、景初3年(=239年。卑弥呼が中国に使者を送り、鏡100枚を賜ったという年)の銘のある銅鏡が出土し、世間をあっと言わせた古墳。長さ5.8mの長い竪穴式石室(細長い木の棺のまわりを石で囲った施設)を持ち、鏡以外にも鉄の武器、農具、工具などが大量に出土した。出土品は国の重要文化財。現在は改修工事によって石室が赤川のほとりに移築され、見学することができる。
 <交通> J R 加茂中駅から車5分
 <いにしえ> 2巻P40、3巻P31、5巻P43、7巻P9


珍しい朝鮮鐘 光明寺

 加茂町大竹
 <指定>国重文・工芸(銅鐘)
 斐川町との町境に近い大竹山(316m)の山腹にある古いお寺。出雲霊場7番札所として信仰を集めている。所蔵の銅鐘は南北朝時代の14世紀後半に朝鮮から伝わった珍しいもので、国の重要文化財。ここからの眺望は素晴らしく、桜の名所でもある。周囲には自然林が残り、四季折々にさまざまな植物が観察できる。
 <交通> J R 加茂中駅から車15分
 <連絡先> 0854-49-6565
 <いにしえ> 6巻P37

美しい鎌倉仏 長谷寺


 加茂町三代
 <指定>県・彫刻
 出雲霊場8番札所为本尊の十一面観音立像は、一木彫りで鎌倉初期の作といい、県指定文化財。裏山は椎の自然林がうっそうと茂っている。
 <交通> J R 加茂中駅から車15分
 <連絡先> 0854-49-7412

優美な平安仏 仁王寺


 加茂町宇治
 <指定>県・彫刻
 現在仁王寺の仏堂に安置されている木造薬師如来坐像は、加茂町砂子原にある富貴寺の所蔵で、

平安時代の仏像として県指定文化財に指定されている。
 <交通> J R 加茂中駅から車5分
 <連絡先> 0854-49-7291


広大な山城 高麻城跡

 加茂町大西
 標高195mの高麻山山頂を中心として、四方の尾根に広がる広大な山城。中世後半には尾子十旗の1つにも数えられた、加茂町から大東町にまたがる大規模、かつ残りのよい城跡だ。山の形も美しく、『出雲国風土記』にも記されている。
 <交通> J R 加茂中駅から車5分
 <いにしえ> 5巻P13


楓の屋神楽を伝承 でんしゅう館

 木次町湯村
 <指定>県・無形文化財
 楓の屋神楽は、旧出雲郡の神主神楽が仁多郡の神主のあいだに伝わり、この地に定着したもので、1962年に県無形文化財に指定された。この神楽を守り、伝えるために建設されたのが「でんしゅう館」で、地元の人びとにより上演されている。練習日は毎週月曜・木曜の20時から。近くの賀茂神社の祭日である11月10日には神楽が奉納され、誰でも見学可。
 <交通> J R 木次駅から車25分

民俗資料を展示 旧図書館


 木次町木次
 木次町立図書館の建設、移転によって空いた旧図書館を利用して、生活用具などの民俗資料を収蔵してある。当地における暮らしぶりをしのぶことができるが、見学には木次町教育委員会に連絡が必要。
 <交通> J R 木次駅から徒歩15分
 <連絡先> 0854-42-1925(木次町教育委員会)

古代寺院の塔の心礎 塔の石


 木次町里方
 J R 木次駅裏の民家の脇にあり、地元の人々は「塔の石」と呼び祀っている。『出雲国風土記』に「新造院一所。斐伊郷の中にあり。郡家正南一里なり。殿堂を建立つ。」とある新造院(古代の寺院)

の柱を立てた土台の礎石と考えられている。もともと木次駅構内にあったものを、現在の地に移したと言われている。柱が乗る部分の高まり(柱座)は、径64cm、高さ6cmという大きなものだ。
 <交通> J R 木次駅から徒歩1分


年号が刻まれた国重文の懸仏 保元寺

 木次町木次
 <指定>国重文・工芸
 木次町市街のはずれ、ホシザキ電気工場の向いにひっそりとたたずむ。住職がいいため、村方地区の人びとにより管理されている。この寺にある銅鏡の表面に十一面観音坐像を線彫りであらわし、裏面に年号を陰刻した銅板線刻十一面観音像懸仏は、1965年、国の重要文化財に指定されている。安来市の宮島神社の鏡像に次ぐ古い鏡像で、「保元二年」(1157年)の銘がある。
 <交通> J R 木次駅から車7分


雲南有数の前期の古墳群 斐伊中山古墳群

 木次町里方
 木次町の市街の北にそびえる形の良い山の頂上部にある古墳群。古墳時代前期の小形の古墳が、尾根の上にならびと並んでいる。とくにてっぺんにある1号墳と2号墳は雲南でも有数の前期古墳で、発掘調査された2号墳からは銅鏡も出ている。
 <交通> J R 木次駅から車10分


古代の山城か 城名樋山

 木次町里方
 木次の平野の北側、斐伊川を見おろす山が城名樋山。『出雲国風土記』に「神が城を築いた」という伝承が記されている山で、国道54号線をはさんで中山古墳群の西側にそびえ、中世の山城にも利用され頂上には平坦面がある。
 <交通> J R 木次駅から車10分
 <いにしえ> 5巻P13


おたっぴー情報

 四季折々の景色も楽しめる湯村温泉は、「漆仁の川辺の薬湯」として『出雲国風土記』にも記されている、ありがたい温泉。松江藩の殿様も湯治に来ていたらしい。


神話と鉄の中心スポット 古代鉄歌謡館

 大東町中湯石
 たたら歌や生活歌謡を中心に展示・解説する。建物の外観は「大蛇」をデザインしたもの。中は1階から2階までの螺旋階段に巻きついたヤマタノオロチや、こちらをにらんだ神楽面など、神楽にちなんだ展示物が豊富。また神楽の全演目をビデオで見られることもできる。9時から5時。月曜休館。一般500円、小中生250円。
 <交通> J R 大東駅からバス10分
 飛び石の桂荘下車すぐ
 <連絡先> 0854-43-6568


夫婦岩のある風土記の山 八雲山

 大東町須賀
 標高424m、眼下に中海・宍道湖を望む景勝地で、『出雲国風土記』にも記されている。中腹にある巨岩・夫婦岩は、三つの岩が並び立つ霊地で、須賀神社の奥宮として毎年8月22日に例祭が行われる。古代から信仰の対象になっていたのかもしれない。山頂には祠があり、毎年秋には盛大な例祭、歌祭が行われる。
 <交通> J R 松江駅からバス30分
 薦沢下車、徒歩30分
 <いにしえ> 5巻P13


LET'S DANCE! 海潮神代神楽 「神楽の宿」

 大東町須賀
 <指定>県・無形民俗文化財
 海潮神代神楽は、古代から伝えられてきたものが200年くらい前に整備され、和野、本郷、薦沢、北村、小河内の5地区に始まったとされている。現在も須賀神社への奉納舞として、その伝統が保存され伝習されている。「神楽の宿」では、管理人の黒川氏からさまざまな話が聞けるほか、一人舞も見せてもらえる。近くの須賀神社にも寄りたい。9時から5時。日曜休館。一般150円、小中生100円。
 <交通> J R 松江駅からバス30分。
 <連絡先> 0854-43-3932(管理人宅)


県内最古級の前方後方墳が並び 松本古墳群

 三刀屋町給下
 <指定>県・史跡
 三刀屋の町を見おろす丘の上に造られた古墳群。とくに1号墳と3号墳は、県内でも珍しい古墳時代前期の前方後方墳だ。1号墳は長さ50mで、木が切り払われているので形がよくわかる。発掘調査により、長い木の棺を粘土でくるんだ粘土槨が2つ見つかったほか、銅鏡や鉄剣も


山岳寺院の往事を偲ぶ 極楽寺の仏像

 大東町田中
 <指定>県・彫刻
 現在福福寺に収蔵されている大日如来像1体と木造如来坐像3体は、平安時代の作で県指定文化財となっている。もとは北側にそびえる高峯山にあった極楽寺に納められていたもので、今でも山の中腹には、寺の坊の跡と考えられる平坦地が連なっている。
 <交通> J R 大東駅から車5分
 <連絡先> 0854-43-3052


牛尾氏の居城 三笠城跡

 大東町海潮
 室町時代から戦国時代にかけて、大東町周辺で勢力を張った牛尾氏の本拠。牛尾氏は尼子氏の家臣でもあり、1570年、隣接する高平城に陣を張った毛利氏との戦いに破れ落城したと言われている。山頂周辺には往事をしのぶ平坦地が連なり、井戸や石垣も見られる。
 <交通> J R 大東駅から車10分

昔の農村生活を復元 かみくの桃源郷 郷土資料館


 大東町久野
 斐伊川の支流にあたる長谷川のほとり、かみくの桃源郷の一角にある資料館。昔の農家を復元した建物の内部に、民具や農具が展示されている。周囲は整備されて、水遊びやキャンプなどが楽しめる。家族連れで訪れるにはぴったり。9時から5時。月曜休館。一般100円、小中生50円。
 <交通> 大東町役場から車25分
 <連絡先> 0854-47-0217

県内最古級の前方後方墳が並び 松本古墳群


 三刀屋町給下
 <指定>県・史跡
 三刀屋の町を見おろす丘の上に造られた古墳群。とくに1号墳と3号墳は、県内でも珍しい古墳時代前期の前方後方墳だ。1号墳は長さ50mで、木が切り払われているので形がよくわかる。発掘調査により、長い木の棺を粘土でくるんだ粘土槨が2つ見つかったほか、銅鏡や鉄剣も

出土した。1号墳のすぐ上に造られているのが3号墳で、やはり50m程度の前方後方墳だが、その形や立地から県内でも最古級の古墳と考えられている。
 <交通> 三刀屋町役場から車5分
 <いにしえ> 2巻P41、3巻P31


寺宝も多い絶景の古刹 峯寺

 三刀屋町給下
 <指定>国重文・絵画、県指定・絵画3点
 斐伊川と三刀屋川の分岐点の西にそびえる峯寺弥山(標高299m)の中腹にある出雲霊場9番札所の寺。所蔵の絹本着色聖観音像は、平安時代の仏画で、国指定の重要文化財。現在は京都国立博物館に寄託されている。ほかにも絹本着色十二天像など3点が県指定文化財となっている。庫裏の庭園も美しく、また背後の峯寺弥山からの眺望は見事。この山は『出雲国風土記』にも記載されている。
 <交通> 三刀屋町役場から車10分
 <連絡先> 0854-45-2245
 <いにしえ> 5巻P15


中世から近世の大規模城跡 三刀屋城跡

 三刀屋町古城
 <指定>県・史跡
 三刀屋川沿いの高低い丘の上にある城跡。中世にこのあたりを支配した三刀屋氏の居城で、大規模な堀切や数多くの切り開かれた平坦地(郭)が残されている。とくに頂上の主郭部分では、櫓台や石垣を見ることができる。三刀屋の町を見おろす眺望は素晴らしく、また周囲は三刀屋城公園として整備され、桜の名所でもある。
 <交通> 三刀屋町役場から車5分


三刀屋氏初期の山城 じゃ山城跡

 三刀屋町古城
 <指定>県・史跡
 中世の三刀屋氏初期の居城とされる山城。山頂や尾根上には平坦地や土塁、堀切、竪堀などがよく残り、頂上部からの展望は絶景。
 <交通> 三刀屋町役場から車10分


三刀屋氏初期の山城 じゃ山城跡

 三刀屋町古城
 <指定>県・史跡
 中世の三刀屋氏初期の居城とされる山城。山頂や尾根上には平坦地や土塁、堀切、竪堀などがよく残り、頂上部からの展望は絶景。
 <交通> 三刀屋町役場から車10分


おたっぴー情報

 古刹(古いお寺)として知られている光明寺は、1964年の加茂の大水害の際、町民の避難場所となった。また、映画「ぼくちゃんの戦場」のロケ地にもなった。

重要文化財の仏像が美しい 禅定寺


 三刀屋町乙加宮
 <指定>国重文・仏像、県・仏像3体
 禅定寺山(標高372m)の中腹にある、出雲霊場10番札所。自然に囲まれて、石垣や堂が趣をかもし出している。所蔵の木造聖観音立像は、平安初期の木造りで国の重要文化財。そのほか、県指定の仏像も3体ある。盛期には42坊を数えたといい、背後の山にはそれを裏付けるように、多くの平坦面が残っている。この山は鍋を伏せたような丸い形で、『出雲国風土記』にも「奈倍山」と記載がある。
 <交通> 三刀屋町役場から車20分。
 <いにしえ> 5巻P15

縄文時代の埋蔵 宮田遺跡


 三刀屋町多久和
 <指定>県・史跡
 飯石川の河岸段丘上にある、縄文時代から古墳時代にかけての遺跡。1979年の発掘調査で、土器の甕を伏せて住居内に埋めた、縄文時代後期後半の「埋蔵」が発見され注目を浴びた。この埋蔵は幼児の

埋葬用と考えられ、ほかにも多くの縄文時代の土器、石器などが出土した。
 <交通> 三刀屋町役場から車15分

巨大な御神体石 飯石神社

 三刀屋町多久和
 飯石川上流にある古社で、巨石をそのまま御神体にした珍しい社だ。神社からは、古代の土器なども出土しており、古くから石神として信仰されていたものと考えられる。この上流には県指定・名勝天然記念物の雲見の滝もあり、あわせて訪れてみたい。
 <交通> 三刀屋町役場から車15分

県指定文化財の鱈口がある 寿福寺

 三刀屋町多久和
 <指定>県・彫刻(鱈口)
 出雲霊場12番の札所で、観音堂がある。所蔵の鱈口は、青銅製で戦国期の作。鱈口はドラに似た鳴り物で、仏殿の前につるして、たらした綱で打ち鳴らす。
 <交通> 三刀屋町役場から車15分

山城ワンポイントレッスン

日本全国どこにでも、人知れずあるのが中世の山城跡。山城見学のための必須用語を簡単に紹介しましょう。

郭(くるわ)(曲輪とも書く)
 山城跡に行くと頂上や尾根の上に平坦な面があるはず。頂上の中心的な郭を主郭と言う。この上に建物や柵などの施設があった。

堀切(ほりきり)
 尾根を歩いていると、突然ガクンと落ち込んでいる部分がある。尾根を横断して深い溝を作ったもので堀切と言う。敵の侵入を防ぐためのもの。

竪堀(たてぼり)
 郭のまわりの急な斜面に、縦方向の溝があることがある。竪堀と言い、斜面をはいあがってくる敵が登りにくいようにするためのもの。これがわかれば山城マニア。

虎口(こぐち)
 城の中心部分にはいるための入口。中の様子がわからないよう、曲がりくねっている。

